

秦野市立 桜土手古墳展示館 だより

Vol.57 SAKURADOTE ARCHAEOLOGICAL MUSEUM

平成 29 年度 春号

平成29年度春季特別展

「昭和の秦野 ～暮らしと道具展～」

桜土手古墳展示館では、市内の文化財や歴史への市民の皆様の理解を高めるため、テーマを決めて定期的に特別展を開催しています。

今回は、市民の暮らしに使用された道具類にスポットを当て秦野市教育委員会が所蔵する昭和30年代を中心とした生活道具を展示します。



日 時 平成 29 年 4 月 1 日(土)から

平成 29 年 6 月 30 日(金)まで

午前 9 時から午後 5 時まで(入場は 4 時 30 分まで)

場 所 桜土手古墳展示館 入場無料

展示内容 昭和30年代を中心に生活に使用された道具、電化製品、生活の様子を写した写真などを展示します。なつかしい昭和の秦野を思い出してください。



今後も各イベントについては事前に市の”広報はだの”に掲載します。また秦野市のホームページもご覧ください。

(桜土手古墳展示館)



桜土手古墳公園お花見情報

秦野市にはお花見のスポットがいくつもありますが 桜土手古墳公園も春には美しい桜の名所として 市民の皆様喜んでいただいております。

公園の外周に沿って咲き乱れる桜を公園からゆっくりご覧いただけます。毎年 **3月末ころから4月初め**までが桜鑑賞の時期となります。(年により若干の前後があります)市内の桜の名所めぐりのひとつとして美しい桜土手古墳公園の春をお楽しみください。ご注意ください。公園内のゴミ放置は禁止されております。お花見後のゴミはお持ち帰りいただけますようお願いいたします。



今年は秦野市では「桜のまち秦野」のキャンペーン「いらっしやいませ秦野へ 春一番のおもてなし 満喫宣言!」が開催され(3月1日から4月30日まで) イベントや市内の飲食店での桜にちなんだ料理 食品の提供が予定されています。併せてお楽しみください。(その他のお花見スポットは市の広報で紹介されています)

展示館だよりミニレクチャー 秦野の原始・古代の遺跡めぐり「弥生時代編」

今回は2011年の展示館だよりに掲載した秦野の歴史についての解説の第3回目の再掲載です。



弥生前期壺型土器(県指定重要文化財)

弥生時代は、水稻農耕の開始をその画期としています。1900年代には弥生時代の始まりは紀元前6世紀や3世紀といわれてきました。10年ほど前年代測定の精度が向上したため、弥生時代の開始は紀元前10世紀に遡り、早期(BC10~9)、前期(BC8~5)、中期(BC4~1)、後期(AD1~4)の4つに分けられています。弥生文化は渡来系の人々が中心に作り上げた文化というイメージがありますが、実際はそれまで育まれた縄文文化と大陸の文化がまじりあった文化なのです。また、当時の自然環境は、現在よりも寒冷で、海岸線は現在より2~3メートル後退していました。

北部九州に稲作が伝わったころ、東日本は縄文時代の狩猟採集社会でした。また、環状集落といった大規模なムラはなく、小さなムラが営まれていました。弥生文化が南関東に伝わるのは、紀元前5世紀頃だと考えられており、東日本でも数少ない縄文時代晩期から弥生時代への移行期の遺跡が秦野市平沢にある平沢遺跡です。この遺跡から住居跡は発見されていませんが、晩期から弥生時代初頭の土器が多く出土しており、中には土器片に稲籾の圧痕があるものも出土しています。平沢遺跡周辺は、湧水による湿地がひろがっており、その周辺で稲作が行われていたと考えられます。しかし、同時期中屋敷遺跡(大井町)では、土坑からアワ、米やトチの実などの多様な食物が出土していることから、南関東の弥生時代初頭は縄文時代から続く多様な食糧獲得のための生業の一つに稲作が加わったと考えられます。平沢遺跡は弥生時代中期の中ごろまで存続しますが、それ以降、後期末まで盆地内に弥生時代の遺跡はなくなります。

一方盆地内に遺跡がなくなる頃、盆地の外では、西日本の弥生文化の要素をもつ大規模なムラが南矢名と鶴巻に営まれます。南矢名の砂田台遺跡(現 秦野精華園周辺)、鶴巻の根丸島遺跡(現 ひかりのおか公園周辺)では、溝でムラを囲んだ環濠集落とよばれるムラや方形周溝墓と呼ばれる墓が発見されています。また、砂田台遺跡から

は炭化米や大陸系の石器や鉄器など西日本の弥生文化の特徴が多くみられることから、本格的な水稲農耕がこの時期に開始されたことがわかります。平沢遺跡の消滅時期と 両遺跡の開始時期が、重なるため平沢遺跡の住人が移動したと考えられますが、西日本的要素が多くみられることから、西方からの移住者があったとも考えられます。

後期になると砂田台遺跡ではムラの規模が小さくなりますが、神奈川県全体では遺跡数が急激に増えます。そして、金目川流域の遺跡では駿河、東遠江系の土器が多くみられることから、東海地方東部から大規模な移住があったと考えられています。しかし、秦野盆地内では集落は営まれず、盆地の開発は古墳時代後期を待たねばなりませんでした。



砂田台遺跡出土の土器

(上の記事は2011年の展示館だよりに掲載したものの再掲載です)

最新の情報:

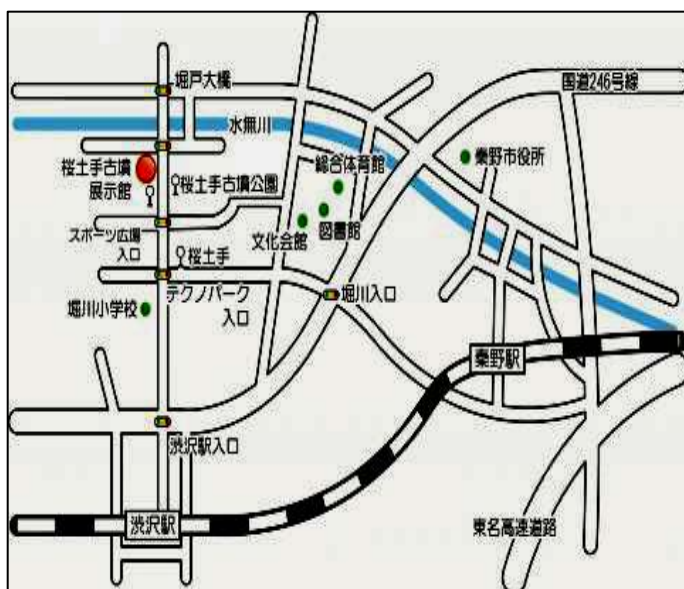
平成 29 年 1 月現在、新東名高速道路建設工事に伴う発掘調査が行われており、柳川竹上遺跡からは狩猟で動物を捕獲する施設と考えられる落とし穴が発見されました。蓑毛小林遺跡では縄文時代、弥生時代の土坑が多く発見されており、これも動物捕獲のための落とし穴と考えられています。一方で人々が寝起きをしたような住居跡はみつかりません。遺跡からは複数の時代の土石流の痕跡がみつかり、こうした災害が住居跡が見られない原因のひとつと思われます

(掲載写真の品物は神奈川県埋蔵文化センター蔵のものですが桜土手古墳展示館地下プロムナードに展示しています)



壺と碗(古墳展示館展示品)

(古墳時代編へ続く)



<桜土手古墳展示館へのアクセス>

- ☆小田急線渋沢駅北口より徒歩 20 分
 - 〃 バス秦 54 秦野駅行「桜土手古墳公園」下車徒歩 2 分
 - 〃 バス秦 08 秦野駅行「桜土手」下車 徒歩 10 分
 - 〃 渋 05 高砂車庫前行「桜土手古墳公園」下車徒歩 2 分
- ☆小田急線秦野駅北口より
 - 〃 バス秦 54 渋沢駅北口行「桜土手古墳公園」下車徒歩 2 分
 - 〃 バス秦 08 渋沢駅北口行「桜土手」下車 徒歩 10 分
- ☆ 入館無料 開館時間午前 9 時～午後 5 時(月曜休館) 駐車場有 (入館は午後 4:30 までです)

桜土手古墳展示館だより Vol. 57 号 平成 29 年度春号

発行日 平成 29 年 3 月 15 日
 編集発行 秦野市立桜土手古墳展示館
 〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下 380-3
 TEL 0463-87-5542 FAX 0463-87-5794

ホームページ: [桜土手古墳展示館](#)